

福智町 議会の窓

議会だより

FUKUICHI TOWN COUNCIL NEWS

2018.12
VOL 44

主な 内容

- 議決結果 2
- 決算特別委員会報告 3
- 常任委員会報告 4
- 一般質問(8議員) 7
- 研修会参加報告 16
- 編集後記 16

表紙 福智下宮神社

(場所:福智町上野423)



常任・議会運営委員長・副委員長研修会で 参んできました。

平成30年10月22日

福岡県自治会館において「常任・議会運営委員長・副委員長研修会」が開催されました。「地方議会をめぐる諸問題と委員会の進め方について」を演題に、前全国都道府県議会議長会事務局次長である内田一夫氏から講演を受けました。

内容は、地方議会をめぐる最近の動きを取り上げ、(1)平成29年地方自治法の改正概要(議会関係)2)なり手不足対策(3)男女共同参画の推進法についての解説でありました。また、委員会の進め方として、委員長の心得や権限等に関するお話もありました。

特に、委員長の心得としては、委員長は、会議の進行に大きな影響力を有しているため、中立公平を旨として自分の意見を会議員に押し付けることなく、会議を進める必要があると説かれていました。これに関しては誰も思いあたるところがあるのではと思います。

また、議員のなり手不足につきましては、小規模になるほど議員のなり手不足が切迫する状況にあり、その要因としては、各市町村において定数削減を進めてきた結果、元々議員定数が少ない小規模市町村ほど議員の負担感が増加しており、時間的拘束が大きい一方で、議員報酬だけでは生計を立てていけない状況があるとのことでした。本町でも、議員のなり手不足対策を検証する必要があると思います。

本町の議員定数は、来年4月に予定されている統一地方選挙後、現在の20名から2名削減した18名となります。しかし、町民の声を町政に反映させる窓口がせばまれるという反対意見も看過することのできない問題だと思えます。



表紙の紹介



一の鳥居

厳かな空気が漂う 福智下宮神社

福智修験の発祥の地とされる福智神社は、白鳳元年(西暦650年)に開山したと伝えられており、農耕に従事する企救、鞍手、田河の三郡にまたがる三六カ村の崇祖として、信仰の中核的な役割を果たしてきました。福智山頂に上宮、その中腹付近に中宮、麓には下宮があります。

福智下宮神社は、福岡県神社誌によれば、創建は飛鳥時代の末期、やまとたけるのみこと慶雲4年(西暦707年)とされています。なお、日本武尊の父である景行天皇(西暦71年から西暦130年推定)が自ら九州に遠征して熊襲討伐をした際に休息をとったと伝えられる地に鎮座しているとされています。また、境内の鳥居のそばには数々の名曲を残した河村光陽先生の生誕地記念碑があります。



朝夕めつきり冷え込むようになり木枯らしの冷たさが身にしみる季節になりました。後世に伝えたい息づく伝統福智神社の盛大な祭典を行う郷土の獅子舞、その起源は数百年前といわれています。郷土獅子の場合、赤が雄獅子、青は雌獅子と区別されており、舞うことにより、はらひ被を行います。楽打ちは少女はちまきにタスキをかけ、鬘斗を背負い手甲てうぎ脚絆くまそは優美そのものです。獅子舞は楽によつてはこばれます。横笛と太鼓が主で稚児のうつつ太鼓も各楽章の区切りをつける大切な役目をもっています。楽は曲楽と舞楽に大別され、共に十二楽に別れ、更に楽は四つに区分されます。この楽の分れがそのまま獅子舞の四つの変化につながっています。この福智神社の祭礼を子ども達に伝承し、末代まで受け継がれることを願っています。寒さ厳しき折、新年を健やかに迎えられます事をお祈り致します。

木戸勝正